

Next Action



ISCM VILNIUS 2022
ヴィリニウス, リトアニア



中村仁樹 CD発売記念ライブ
渋谷JZ BRAT



SANKYOKU 2022
宇都宮市文化会館小ホール

KOTO-NOBU-LOG.



キャラバン終着！

「ノブラボ・コンサート・キャラバン」と題して、6月に神奈川を出発し、東京を経たツアーが、先週、無事に栃木で終演しました。毎公演、理想通りにはいかず、失敗と反省ばかりで、嘆息する日もありましたが、今のご出演頂いたゲストの皆さま、お手伝い頂いたスタッフの皆さま、そして何より、ご来場下さったお客様に心より感謝しています。

“Laboratory”として「ノブラボ」は、これからも箏曲へ関わる人や社会を充実させるために、常に次のつながりを求めて進めていこうと思います。次回も、どうぞ、お楽しみに！！

日本遺産「大谷石文化」と邦楽演奏会



コンセプトは「地域創生」、そう書くと人口減少社会の問題や地域経済の活性化といった印象が強い言葉に思え、邦楽演奏会とはかけ離れた言葉のように受け取られがちですが、今回の公演では、私の故郷からスタートさせる私たちの世代による次世代への文化や芸術創造の始まりという思いを込めた言葉でした。

当日の会場「大谷石蔵スタジオ be off」は、最寄駅の東武宇都宮線「南宇都宮」駅舎を含め、平成30年に認定された日本遺産「大谷石文化」の構成文化財の1つであり、宇都宮市を代表する歴史、文化、地域を踏まえた会場でした。

そして、栃木県の広報役割を担う「とちぎ未来大使」の前川智世さんの三絃、福田智久山さんの尺八、フォーカス・コンポーザーに「宇都宮エスペール賞」受賞作曲家である名倉明子さんを迎え、栃木県と宇都宮市に所縁のあるアーティストと共に、地域文化や産業の歴史、そして観光要素を含めて、古典曲から現代作品までの邦楽演奏会を発信するねらいを持って開催しました。

また、「結」という作品タイトルに東洋と西洋の融合を託すなど、いわゆる「現代邦楽」時代を牽引し、二十絃箏の開発、和楽器によるオペラ作曲など、邦楽器の特長を西洋音楽の構築方法で現代化させた作曲家・三木稔（1930-2011）による2つの作品には、

コンテンポラリーダンサーの小林啓子さんの舞踊を加えました。そこには、私たちが演奏する音の表現と「大谷石」によって創り出された陰影のスペースを、よりダイナミックに、ライブ感を持ってお客様と共有したいという思いがありました。

さらに「大谷石」の形成に要した時の流れや

「大谷石文化」の経過に思いを馳せるべく、公演は伝統的な三曲合奏による古典曲《松竹梅》に始まり、現代の三曲合奏曲《夕影の詩》（三木稔作曲）でプログラムを終え、その《夕影の詩》を耳にしたお客様がお帰りになる時、夕焼けを見上げて帰路に着くという自然界の移ろいをご用意していました。

...が、しかし、雨、台風、大雪にあう確率が多い私なので、やはり、雨模様となり、ロマンチックな夕焼けの演出が叶わなかったことは付け加えなければなりません...

お足元が悪い中にも関わらず、ご来場頂きました皆さま、本当にありがとうございました！！！！

